

美浜中学生が海外で交流し、異文化を学ぶ

台湾新北市石門区ホームステイ



台湾桃園國際空港にて



石門区ってどんなところ？

石門区は、台湾の首都・台北から北へ25 kmに位置する台湾最北端の街です。平成22年12月に行政区が再編され、「石門郷」から「新北市石門区」に名称が変更されました。

面積は51.26 km²(美浜町の約3分の1)、人口は約1万2千人です。烏龍茶やシイタケ、タケノコ、蘭の産地として有名で、12 kmにも及ぶ海岸線は景観がすばらしく、絶好の避暑地になっています。

本町とは、互いに原子力発電所が立地していることをきっかけに、昭和63年8月に姉妹都市となり、以来交流を深めています。

7月25日から31日までの7日間、美浜中学生16人と引率者5人で構成される「美浜町ジュニア対外交流団」が、本町と姉妹都市提携を続けている台湾新北市石門区を訪問しました。

今回の訪問は、町の将来を担う美浜中学生が異国の文化や生活等について見聞を広めることや、石門国民中学生との交流を通して社会性・協調性を養い、心豊かでたくましい人材を育成することを目的に行われました。

ジュニア対外交流団の石門区訪問は、平成2年以降1年おきに実施しており、今回で12回目となりました。

生徒たちの現地での様子とその感想を紹介します

※青字が生徒たちの感想です

7月25日(水)

台湾桃園国際空港に到着すると石門区からの出迎えがあり、生徒たちは今回のホームステイでパートナーとなる石門国民中学生と初顔合わせをしました。

ケーキ工場でパイナップルケーキ作りを体験した後、今回の目的地である石門区へ向かいました。

夜には、美浜町ジュニア対外交流団を歓迎する晩餐会が開かれました。

●空港に着いた時はドキドキしていましたが、台湾の皆さんが笑顔で温かく迎えてくれたので、とても安心しました。

●台湾の料理は日本人の口に合わないかもしれませんが、美味しくいただきました。



仲良く台湾料理を堪能(晩餐会)

7月26日(木)

石門区役所を訪問し、区役所では歓迎会が開かれました。

その後、九份山城や黄金博物館園区を見学しました。

●石門区役所を訪れた時、たくさんの方に拍手で迎えられ、とても緊張しました。中国語での自己紹介はイントネーションが無茶苦茶だったと思うけれど、最後まで紙を見ずにできました。言い終えた後の拍手も嬉しかったです。

●一番に残ったのは、黄金博物館で金塊に触ったことです。持ち上げられると思って触ってみると、重さがずっしりで驚きました。



黄金博物館の
大金塊(約220kg)

7月27日(金)

宜蘭クレヨン会館や宜蘭伝統芸術センター等を訪れました。クレヨン会館ではクレヨン作り等を体験。芸術センターでは工芸品や人形劇を見学し、台湾の伝統芸術・文化に触れました。

また、この日からは、石門国民中学生宅でのホームステイが始まりました。

●100年以上の歴史がある台湾で有名な人形劇を観ました。台詞は分からなかったけど、火が燃え上がる演出があつて凄かったです。

●パートナーとの会話が、だんだん弾んできました。あだ名やメールアドレスを教え合っています。多分、自分たちの距離が縮まってきたんだと思います。もっと仲良くなつて親友みたいになりたいです。



台湾伝統の人形劇を観賞

●ホームステイは初めてで、緊張して泣いてしまったけど、ステイ先の家族がとても優しく接してくれて嬉しかったです。パートナーやお姉ちゃんたちとトランプをして楽しみました。



クレヨン作りに挑戦



ホームステイ先の家族と記念撮影

7月28日(土)

この日は台北市へ移動し、故宮博物院や忠烈祠を見学しました。

● 忠烈祠の兵士の動きは本当にキビキビしていて、怖くありませんでした。



故宮博物館
(館内は展示品保護のため撮影禁止でした)



忠烈祠を警備する兵士



温かく受け入れてくれたホームステイ先の家族

● ホームステイでは、パートナーの妹や弟とバスケやバドミントンをしたり、自転車を借りていろんなところを探検したりして、楽しい時間を過ごせました。いつの間にか、近所の子どもたちとも合流し、言葉が通じなくても仲を深めることができ嬉しかったです。

● ホームステイは楽しいです。ステイ先のおばあちゃんが畑の野菜でスープと炒め物を作ってください、お父さんが肉と魚の料理を作ってくださいました。お店で食べる味付けよりも何倍もおいしかったです。

7月29日(日)

ホームステイ先から石門国民中学校へ登校し、「ちまき作り」や「傘の塗り絵」、「獅子舞」等の体験学習を行いました。

3日目を迎えたホームステイもこの夜が最後になりました。

● ちまき作りは、よく分からず苦戦したけど、パートナーが分かりやすく教えてくれたので、何とか無事に作ることができました。

● 獅子舞は迫力があり驚きました。頭の部分をかぶりましたが、とても重くて、これをかぶって動くには相当体力がいるなと思いました。



ちまき作りに挑戦

● ホームステイ最終日にBBQパーティを開いてくれ、盛り上がりました。ここでは、タレをつけずにピーマンやパン等に挟んで食べていたのでびっくりしました。いろんなものを焼いて美味しくいただきました。

● 夜にホームステイ先の家族と一緒に折り紙を折りました。上手に折れた鶴を僕にくれて、涙が溢れるくらい嬉しかったです。明日の朝は、家族みんなに精一杯感謝の気持ちを伝えたいです。



おっ、上手ですね(塗り絵)



お、重い(獅子舞を体験中)

○ 石門区を訪問して



美浜中学校2年
河村 雄希 さん

7月25日から31日までの間、台湾の新北市石門区を訪問しました。

台湾では、当たり前のことですが、漢字しかないことに驚きました。看板等はすべて漢字で書かれており、その意味を理解するのが大変でした。

また、食べ物が想像していたよりもずっと美味しいことに驚きました。特に、6日目に食べた「小籠包」はとて美味しかったです。

3日目、4日目、5日目は、パートナーの家に泊まりました。言葉が通じず、英語も少ししか話すことができなかつたので、コミュニケーションをとるのに苦労しました。けれども、パートナーの家族は優しく、外食へ連れて行ってくれたり、お土産を買ってくれたり、本当にお世話になりました。ホームステイ中は、家族の優しさに心を打たれました。

台湾で出会った人は、皆優しい人ばかりでした。僕がこの7日間で学んだことは、誰にでも優しく接する心を持つことです。今回学んだことは、来年の受け入れの際に活かしたいと思います。

最後に、このような交流事業に参加する機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

今回の訪問で、生徒たちは異なる言語や文化等に触れ、初めての経験に戸惑いながらも多くのことを体験しました。そして、出発前よりもたくましくなつて帰国しました。
この体験を通して学んだことは、生徒たちの生涯の財産となることでしょう。
来年1月には、さらなる交流を築くために、石門国民中学校の生徒が本町を訪れる予定です。

7月30日(月)

新北市政府を訪問し、その後、林本源園邸や紅毛城、真理大学のパイプオルガンを見学しました。
夕食会にはパートナーも出席し、みんなで台湾最後の夜を楽しみました。

● 真理大学のパイプオルガンは、音が透き通っていて感動しました。一生に一回はパイプオルガンの演奏を聴きたいと思っていたので、貴重な体験ができました。

● 最後の夕食会では、日本人、台湾の子、みんな関係なく手をつないだり、肩を組んだりしました。こんな短い期間で言葉が通じなくても、互いに心を通わせられるということ



「マル・マル・モリ・モリ」を踊って盛り上がる両中学生たち(夕食会)

改めて実感しました。

7月31日(火)

石門区役所でのお別れ会の後、台湾桃園国際空港へ行き、生徒たちはパートナーに見送られ日本への帰路につきました。

空港では、別れを惜しみ握手したり、抱き合う生徒たちの姿が見られました。

● お別れ会では、写真がきらいな私のパートナーが、自ら一緒に写真を撮ろうと声をかけてくれて、とても嬉しかったです。たくさん写真を撮り、思い出を残すことができました。

● 空港で別れる時は、本当に寂しかったです。最後にみんなで握手やハイタッチをした時は、泣きそうになりました。

● この7日間で、台湾の文化や歴史についてたくさん教えてもらいました。台湾の子が日本に来た時には、今度は私が日本の文化や歴史を教えたいと思います。私たちは十分楽しませていただいたので、今度は最高のおもてなしをしたいと思います。



来年また笑顔で会いましょう!!